

新しい治療法の紹介

ぐっすりーぷ 関東支部 河野 茜

2014年9月

ぐっすりーぷ関東支部から、新しく開発された睡眠時無呼吸症候群の治療法を報告します。

去る七月二十九日にこの治療法を考案したキングマン先生（米国クリーブランド大学）が私たちの研究の指導に千葉大学を訪れ、その際に新しい治療法について講演されました。キングマン先生は呼吸器内科領域では世界に名だたる方で、背はやや小柄ですが見事な恰幅で、その風貌たるやいかにも重鎮といった様相です。日本からの留学生も多く引き受けて、帰国したお弟子さんたちが今や日本の重鎮です。さて、新しく考案された治療法とは舌を動かす神経、すなわち舌下神経に対する電気刺激治療です。この神経を電気で刺激することによって舌を構成する筋肉を収縮させ、たるんだ舌を硬化させます。これによって舌の裏側にある気道を拡大するといった仕組みです。

さらに、この方法には面白い工夫があります。それは、舌下神経の電気刺激が呼吸を行う外肋間筋（吸気筋）と同期していることです。すなわち、吸気するときのみ舌は刺激されて固くなって気道を拡大するのです。これによる治療効果はマウスピースと同程度。でも、歯がない人でも使えるのが魅力的です。費用は、レクサス一台と同じだそうです。

